

三六災害から学ぶ、地域の防災力向上の大切さ

1 三六災害から学ぶこと

三六災害は、50年前にあった過去の出来事ではありません。50年経過した今も、肉親を失い悲しみの中にある方、失った財産を取り戻せない方がたくさんおられます。

私たちがすむ伊那谷は、土砂災害や河川の氾濫がいたるところで発生しうる立地であることを知り、災害への備えが重要です。

身近な自然の様子を知ること

災害のことを考えるとき、まずは、自分の住んでいる場所、地域の自然についてよく知っておきましょう。がけ崩れがあった場所、土砂災害があった場所は、再び発生する可能性もあります。近くの用水路や川が大雨のときにどんな風になるか…など、自分の周りにも災害は起きうることをしっかり知っておきましょう。

伊那谷の災害特性を知ること

伊那谷は、両側を急峻な山に囲まれ、多くの断層が走り、もろい地質が広域に分布する、土砂災害が発生しやすい地域です。私たちが住む土地は、土石流が幾度も発生し、その土砂が積み重なっています。土石流は、200～300年に一度の周期で発生するとも言われています。次は、いつ、どこで土石流が発生するかもしれないことを、私たちは知っておかねばなりません。

三六災害を伝承すること

災害が身近なものであることを意識し、行動に移すための動機づけとしては、実際の体験にまさるものではありません。ご家族や近所の三六災害を知らない世代が災害を学ぶために、ご自身の体験を伝承していきましょう。



写真 いつ発生するか分からない土砂災害
上 平成18年災害（辰野町小野中村）
中 平成18年災害（辰野町赤羽中山）
下 平成12年恵南豪雨（平谷村内）

2 「いざ」という時のために…

いざ災害が発生し、自分の身に危険が降りかかってきたとき、あなたはどうしますか？消防署や役所からの指示を待っているだけなら、場合によっては逃げ遅れ、命に関わることにもなりかねません。「いざ」という時のためには、日頃から災害を意識し、取組を行っていくことが重要です。

防災力向上に向けてのキーワードは、「自助」「共助」です。以下にそのあり方のポイントを示します。

自助・共助の大切さ

【自助のあり方】

…自分で逃げるための準備

- 1 意識を高めるため、災害体験を聞く・継承する（親子や世代間で）
- 2 身のまわりの危険な箇所を探したり確認する（五感で体験すると自分のものになる）
- 3 防災講習会や防災訓練にくり返し参加する

【共助のあり方】

…力を合わせて災害を克服するための準備

- 1 近所の方と顔見知りになり、仲良くする（いざというときに助け合うため）
- 2 隣組等の単位での取組（訓練や危険箇所確認など）をすすめる
- 3 自分たちで生き抜くこと（避難所での援助を待つのみではなく、自ら活動すること）

を常に意識する

- 4 防災ボランティアに参加してみる
- 5 防災地域コミュニティーを構築する

参考：土砂災害の兆候

【土石流】

- ①初期：流水が異常に濁る
- ②中期：流木発生や流れの中の転石の音
- ③後期：山鳴り・地鳴り
水位の急激低下
- ④発生！

【がけ崩れ】

- ①初期：斜面からの湧水量が増加
- ②中期：小石がばらばら落下
湧水が濁る
- ③後期：小石がぼろぼろと落下
亀裂の発生
- ④発生！

【地すべり】

- ①初期：斜面からの湧水量が増加
井戸水が濁る
- ②中期：地面に亀裂が発生する
- ③後期：山鳴り・地鳴り
- ④発生！

「いざ」という時に、日ごろからの取組みが重要！

もし土砂災害が発生したら…

① 逃げる（自助）

大雨は土砂災害の兆候です。早めに避難しましょう。20mm/時を越える雨が続くようであれば、避難の準備をしましょう。

② 助け合う（共助）

避難するとき、災害に遭ったときは、地域の人みんなで力を合わせ、助けあいましょう。



「備え」が
「いざ」に
有効です！

「その時」に備えて…

① 災害体験を聞く/被災地を見る

災害のときの様子や被災地の状況は、たくさんの方のヒントがあります。災害座談会などに参加しましょう。

② 地域で防災活動に取り組む

自主的な行動が、災害時に命を救い、被害を最小限にし、復興も速やかです。その時にそなえ、地域力アップが重要です。

3 さらに学び行動するために

資料を調べる

■ 『伊那谷の土石流と満水』

三六災害の発生のメカニズム、被害の状況などが包括的に、かつ詳しくまとめられています。

発行：伊那谷自然友の会
・飯田市美術博物館



■ 『災害おはなしマップ』シリーズ

飯田市、伊那市、駒ヶ根市・宮田村に残る災害にまつわるお話や、水害にまつわる石碑などを紹介しています。

発行：駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム構想協議会、天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会



※ その他、国土交通省天竜川上流河川事務所のホームページからも、伊那谷の土砂災害等に関する情報をご覧いただけます。

施設を見学する

伊那谷には、土砂災害について学べる施設があります。土砂災害のメカニズム、対策の方法などの情報を得ることができます。

■ 駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム

駒ヶ根市、宮田村

中央アルプスの豊かな自然に育まれた駒ヶ根高原一帯の自然、人々が築きあげた文化、郷土を守る砂防設備により整備が進んだ土地利用、景観ビューポイントなどの地域資源全体を野外展示物と見立てた青空博物館。地域活性化と、地域の安全・安心のための防災力を向上させることを目的に運営されています。

TEL 0265-81-7700 (駒ヶ根観光協会)

■ 天竜川総合学習館 かわらんべ

飯田市川路 7674

「天竜川の学習」「地域コミュニティ」「防災の拠点」という3本の柱をもとに、講座や体験学習が開講され、地域の防災の拠点の役割を担っています。館内には様々な展示物や図書室、貸室可能な「総合学習室」があり、無料で閲覧・利用できます。

[利用]

開館時間：9：00～17：00

休館日：月曜・祝日の翌日

入館料：無料

TEL 0265-27-6115

活動する

三六災害50年を機に、地域防災力を高めるための活動の手引きをまとめています。その他、地域での防災力向上のための取り組みを支援しています。

地域の防災力向上に向けた防災活動の手引き ～一般向け～

地域防災初歩講座

- ・災害足跡見学会
- ・災害伝承座談会
- ・災害DVD視聴会

防災リーダー養成講座

- ・防災有識者による講習会
- ・地域防災講習会

地域防災ワークショップ

- ・集落防災マップづくり
- ・集落防災訓練

【問合せ先】

- ・各市町村役場防災担当課
- ・国土交通省天竜川上流河川事務所
〒399-4114 駒ヶ根市上穂南7番10号
TEL：0265-81-6417